
令和6年度 第3学年

SYLLABUS

(シラバス)

自主実践

授 業 計 画

北海道白糠高等学校

目 次

科目名をクリックするとそのページに移動します

国	語	表	現	…	2
歴	史	総	合	…	5
政	治	・	経	済	… 7
実	用	数	学	…	8
数	学	研	究	…	—
化	学	基	礎	…	9
理	科	課	題	研	究 … —
体			育	…	11
生	涯	ス	ポ	ー	ツ … 13
音	楽	表	現	…	15
コミュニケーション英語Ⅱ				…	17
論	理	・	表	現	Ⅰ … —
情	報	処	理	…	19
マ	ー	ケ	テ	ィ	ン グ … 21
簿	記	探	求	…	24
生	活	と	福	祉	… 26
フ	ー	ド	デ	ザ	イ ン … 28
総合的な探究の時間				…	30

学年・コース	教科		科目		単位数	担当者		
3 学年	国語		国語表現		4	秋間 朋子		
使用教科書	国語表現（東京書店）			使用副教材	国語表現改訂版演習ノート（教育出版）			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする資質・能力を育成し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		◎			○	○	○	
育成のための 具体的方策	コミュニケーション力：他者意識をもち、相手の意見を受け入れ、自分の考えを伝える活動を行う。 情報活用力：ICT機器を適切に活用し、情報を収集し、整理してまとめる。 未来設計力：言葉を通して他者や社会に関わり、将来的に必要な力を知る。 協働力、課題解決能力：自らの課題を把握し、グループワークなどで他者と協働し、課題解決を目指す。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価の方法	作品・発表 ワークシート グループワーク 発表・作品			作品・発表 ワークシート グループワーク 発表・作品		作品・発表 ワークシート グループワーク 発表・作品		
単元の目標・評価規準								
単元名	表現とは何か							
単元の目標	・冒頭の文章や「表現の窓」の文章を読んで、「表現とは何か」について考える。 ・さまざまなゲームに取り組み、表現を学ぶ際に重要なことを体験的に知る。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。。			・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。		導入のミニゲームを通じて、傾聴や身体表現などを進んで自ら体験し、学習課題に沿って表現が伝わったときの喜びを理解しようとしている。		
単元名	分かりやすく説明しよう							
単元の目標	・情報を整理し、「相手」「内容」「目的」「状況」に応じて、分かりやすく伝える方法を身につける。 ・学習を通じて得られた「分かりやすく説明する方法」を、日常生活においても状況に応じて使えるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。			・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。		分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとし、学習課題に沿って、言葉選びや言葉遣い、情報の整理などの観点から、説明の仕方を改善しようとしている。		
単元名	身体で表現しよう							
単元の目標	・自分の身体が表現しているものについて考えを深める。 ・演劇的な活動に取り組み、自分の身体を効果的に使って表現するスキルを身につける。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。			・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。		即興で演じる活動を通じて、身体が表現することを積極的に意識し、スピーチや発表などの際に効果的に伝えられるよう、今までの学習を生かして表現の仕方を改善しようとしている。		
単元名	「自分」を表現しよう							
単元の目標	・自己分析を行い、第三者の意見も踏まえて、客観的に「自分」を把握する。 ・志望理由書・履歴書の作成、模擬面接などで、相手に伝わるように「自分」を表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。			・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫している。		自分を表現する活動を通じて、相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことを粘り強く理解し、今までの学習を生かして表現を改善しようとしている。		
単元名	「問い」を考えよう							

単元の目標	・問う力・質問力が自他の表現および思考の質に大きく関わることを認識し、その種類や機能を学び、活用法を習得する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	コミュニケーションや思考において「問う力」が重要であることを粘り強く理解し、学習の見通しをもってインタビューの企画、準備、実施、インタビュー記事の執筆活動に臨もうとしている。
単元名	表現を楽しもう		
単元の目標	・俳句、短歌、エッセー、物語など、いろいろなジャンルの作品創作を通じて、言葉を用いて表現することを楽しむ。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。	・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	文学作品の創作に意欲的に取り組み、読み手を意識しながら粘り強く表現の仕方を工夫して、今までの学習を生かして自分が思い描いたことを的確な言葉で表現しようとしている。
単元名	論理的な文章を書こう		
単元の目標	・現代社会のトピックに対して、問題発見・課題分析を行い、問題解決能力を養う。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	小論文を書く活動を通じて、設問に応じて主張を組み立て、根拠を明確にしながら論じることを粘り強く理解し、学習の見通しをもって自らの文章を改善しようとしている。
単元名	話し合う力をつけよう		
単元の目標	・合意形成を目的とする話し合いの展開パターンと、それを支えるファシリテーションの概念および基本的なスキルを学ぶ。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・「話すこと・聞くこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	ファシリテーションの意義や技法を粘り強く理解し、学習の見通しをもって話し合いの中で積極的に実践しようとしている。
単元名	情報活用力を身につけよう		
単元の目標	・相手意識を持ち、相手にとって有用な内容や理解しやすい表現を吟味する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	広報資料の目的を粘り強く理解し、学習課題に沿って読み手に伝えたい情報を吟味し、話し合いながら協力して、よりよい広報資料を作ろうとしている。

授業計画						
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	オリエンテーション	○1年間の学習内容、評価の方法等について理解する。	1		
		表現とは何か	○表現について考え、様々な表現ゲームに取り組む。	2		省察等
	5	分かりやすく説明しよう	○実社会における様々な形態の文章・音声の中から、分かりやすい説明の仕方について知る。	9		ワークシート・発表 グループワーク 省察
		身体で表現しよう	○自分の身体を使って伝えたいことを適切に表現する。	9		ワークシート・発表 グループワーク 省察
	6	自分を表現しよう	○自己分析 ○面接	30		ワークシート・面接 省察
	7	表現を楽しもう	○俳句・短歌・物語など様々な形態の創作活動を行う。	15		作品
	8					
	9	「問い」を見つけよう	○「よい質問」について学び、学習したことをインタビューや文章読解に活かす。	10		ワークシート グループワーク 省察
	10	論理的な文章を書こう	○小論文	15		ワークシート・作品 省察

	11	伝え合う力をつけよう	○話し合い ○ディベート	2 5	ワークシート・発表 グループワーク 省察
	12				
	1	情報活用力を身につけよう	○複数のテキストから得た情報を元に、目的に応じた適切な資料を作成する。	1 2	ワークシート・作品 グループワーク 省察

合 計

128

学習サポート	
--------	--

[目次に戻る](#)

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
3学年	地歴・公民科	歴史総合		3	下條 俊太郎			
使用教科書	私たちの歴史総合（清水書院）			使用副教材				
科目の目標	近現代史を中心に日本の歴史と諸外国とのかかわりを学び、主体的に生きるために必要な資質・能力を身に付ける。また、自国の文化と異文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○				○	○	○	
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシート、定期考査、単元テスト。情報活用力：インターネットなどを活用して資料を作成、資料の分析。未来設計力、協働力・課題解決力：SDGsを利用した課題設定、課題解決。グループワーク等による意見交換等。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	歴史的事象を広い視野からとらえ理解しており、諸資料を活用して考察できている。			歴史的事象を多面的・多角的に説明でき、表現できている。		関心・意欲をもって、主体的に学習に取り組んでいる。		
評価の方法	ノート・提出物・定期考査			ノート・提出物・単元テスト		ノート・提出物・授業態度		
単元の目標・評価規準								
単元名	歴史の扉							
単元の目標	日常生活の中で見られる物事の始まりと近代の関係について理解し、情報の適切な活用の仕方などを多面的に考察し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	歴史を学ぶ上での最低限の大前提を理解している。			現代における価値観にとられず、その時代の人びとがどのような考えで暮らしていたかを理解している。		自分がその時代に生きていたらどう考え、どう行動していただろうと想像することが出来る。		
単元名	近代化と私たち							
単元の目標	欧州の宗教改革・大航海時代に始まるアジアを初めとする植民地化とそれを近年まで強固なものにしたいち早い奴隷制度を踏まえた上で、産業革命以降の世界から植民地化を免れ、世界の強国へと成長していく日本を、特に日露戦争をメインに見ていく。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	幕末の日本は意見が2つに分かれたが、大きな戦争もなく、支配階級の武士が自らの特権を捨てることで近代化を成し遂げたことを理解している。			欧州人が日本を植民地にしなかった理由を長所・短所を踏まえて考察できる。		僅か数十年で強国へと成長した日本は、単に運が良かったただけなのか。当時の人たちの巧みな交渉術や外国人の日本評などからイメージすることが出来る。		
単元名	国際秩序の変化や大衆化と私たち							
単元の目標	およそ10年おきに起こる大きな戦争とその間の好景気・不景気の中での日本人の生活や文化がどのように変化したのかを見ていく。二つの大戦の経過の中で、日本が国際社会の中でどのような立場へと変化していったのかも考える。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	大正デモクラシー、普通選挙、世界恐慌、ファシズムの台頭と僅か30年の間に日本を取り巻く環境が大きく変化したことを理解している。			日本が戦争にひた走った背景には何があるのか。軍部の暴走だけではないその背景を細かく考察できる。		当時「進め一億火の玉だ」というスローガンがあったが、実際の人口は7千万人程だった。なぜ一億と表現したのか。当時の世相を想像する事が出来る。		
単元名	グローバル化と私たち							
単元の目標	戦後、平和憲法と連合国の支援により急速に復興を遂げた日本。その「高度経済成長」の姿は現在の世界の国々の間でも模範とされている。これも日本が単に運が良かったただけなのか。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	戦後の歴代内閣が向き合ってきた諸課題や憲法9条と自衛隊の問題、米国との地位協定などをつつずつ把握している。そして、現在の世界が抱えている問題と日本の関係を考えることができる。			米国進駐軍の支援で先進国になったと言われることがあるが、日本はその国と戦争をする力のある国だったと言うことは、戦前から先進国だったのではないかと。私たちの持つ「先進国」というイメージにとらわれない考察が出来る。		冷戦終結というが、本当に終結したのか。「新冷戦」「新々冷戦」とは何か。各国の思惑を理解した上で、日本がこれからどう進み、また国際社会の中でどのような役割を担うべきかを考えることが出来る。		

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 歴史の扉 歴史と私たち 歴史の特質と資料	日常生活の中で見られる物事の始まりと近代の関係について理解し、情報の適切な活用の仕方などを多面的に考察し、表現する。	5		単元テスト ワークシート
	5 近代化と私たち 生活や社会の変化を読み取ってみよう 結びつく世界と日本	欧州の宗教改革・大航海時代に始まるアジアを初めとする植民地化とそれを近年まで強固なものにしたいち早い奴隷制度を踏まえた上で、産業革命以降の世界から植民地化を免れ、世界の強国へと成長していく日本を、特に日露戦争をメインに見ていく。	15		単元テスト 調べ学習の取組
	6 国民国家と明治運動 近代化と現代的な諸課題		20		単元テスト グループワーク
	7 国際秩序の変化や大衆化と私たち 生活や社会の変化を読み取ってみよう	およそ10年おきに起こる大きな戦争とその間の好景気・不景気の中での日本人の生活や文化がどのように変化したのを見ていく。二つの大戦の経過の中で、日本が国際社会の中でどのような立場へと変化していったのかも考える。	15		単元テスト ワークシート
	8 第一次世界大戦と大衆社会		5		レポート
	9 経済危機と第二次世界大戦 ＜前期期末考査＞		10		定期考査
	10 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		10		グループワーク ワークシート
	11 グローバル化と私たち 生活や社会の変化を読み取ってみよう 冷戦と世界経済	戦後、平和憲法と連合国の支援により急速に復興を遂げた日本。その「高度経済成長」の姿は現在の世界の国々の間でも模範とされている。これも日本が単に運が良かっただけなのか。	8		単元テスト ワークシート
	12 世界秩序の変容と日本		8		単元テスト ワークシート レポート
	1 ＜後期末考査＞				定期考査
合 計			96		
学習サポート		・教科書、筆記用具（2～3色程度のペンも必要）、ノートはルーズリーフも可。 ・考査後のノート提出のときは名前を書き、提出時バラバラにならないようにする。 ・プリントは考査に出題されることがあるので教科書かノートに挟むなどして保管する。 ・「忘れ物をした」「提出物を失った」「提出物を忘れた」場合、必ず報告・連絡・相談をすること。 ・受験科目に歴史総合がある人（大学、短大、公務員、就職試験）は教科担任に相談すること。			

目次に戻る

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
3学年(選択)	地歴・公民科		政治・経済		2	下條 俊太郎		
使用教科書	高騰学校政治・経済（清水書院）			使用副教材				
科目の目標	・日本国憲法、国会、内閣、裁判所について学び、主権者として社会に主体的に参加できるような力を身に付ける。 ・経済のしくみについて学び、自立して生活するための基本的な力を身に付ける。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○				○		○	○
育成のための 具体的方策	基礎学力：授業、課題、定期考査など。情報活用力：ICTを活用し、メディアリテラシーを育成。 協働・課題、社会形成：グループワーク、課題解決学習。							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な知識を理解し、適切に使うことができる。		課題を見出し、解決にむけ多角的に考察し、公正に判断して、適切に表現し、資料を適切に選択、判断、効果的に活用している。			積極的に、学習に取り組み、現代社会と人間について関心と課題意識を高めている。		
評価の方法	ノート・提出物・定期考査		ノート・提出物・単元テスト			ノート・提出物・授業態度		
単元の目標・評価規準								
単元名	現代日本の政治・経済							
単元の目標	私たちに「法」とは何か、「政治」とは何かを考え、これらのものが身近なものとして存在していることを認識し、「知っていた方が便利で、賢く生きられる」ことを知ることで、学習意欲を増進させる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	政治や法は私たちに何をもたらしているのかを知り、日本が現在まで歩んできた歴史を踏まえて理解している。。		政治や法だけでなく、経済に関しても、私たちが活動することで何が生まれ、何が問題となるのかを考えることが出来る。			憲法とはそもそも何のために存在しているのか。憲法と法律・条例・規則との関係は何かを考えることが出来る。		
単元名	現代の国際政治・経済							
単元の目標	日本に暮らしている私たちは、実はそれだけでかなり優位で得をしていることを認識し、更により良い暮らしをするためには自分達が社会に対して何を還元していけば良いのかを、世界の政治や経済と比べながら考察していく。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	国際的機関が存在していても戦争を止めることは出来ない。私たちに平和とは何か、幸福とは何かを理解している。		貧困と戦争は決して無関係ではない。現代の国際情勢は大戦前に似ていると言われる。どうするべきかを考えられる。			近隣諸国との軋轢はあるものの、日本は80年近く戦争をせずに過ごしているのは、私たちが何を守っているかを考えられる。		

授業計画							
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
前期	4	現代日本の政治・経済	私たちに「法」とは何か、「政治」とは何かを考え、これらのものが身近なものとして存在していることを認識し、「知っていた方が便利で、賢く生きられる」ことを知ることで、学習意欲を増進させる。	3		単元テスト ワークシート 調べ学習の取組 グループワーク レポート	
	5	現代政治のしくみと日本		10			
	6	現代経済のしくみと日本		15			
	7	現代日本の諸課題		10			
	8						
	9	<前期期末考査>			3		定期考査
	10	現代の国際政治・経済	日本に暮らしている私たちは、実はそれだけでかなり優位で得をしていることを認識し、更により良い暮らしをするためには自分達が社会に対して何を還元していけば良いのかを、世界の政治や経済と比べながら考察していく。	7		単元テスト ワークシート 調べ学習の取組 グループワーク レポート 定期考査	
	11	現代の国際社会と政治		7			
	12	現代の国際社会と経済		5			
		国際社会の諸課題					
	1	<後期末考査>			4		
合 計				64			
学習サポート		・教科書、筆記用具（2～3色程度のペンも必要）、ノートはルーズリーフも可。 ・考査後のノート提出のときは名前を書き、提出時バラバラにならないようにする。 ・プリントは考査に出題されることがあるので教科書かノートに挟むなどして保管する。 ・「忘れ物をした」「提出物を失った」「提出物を忘れた」場合、必ず報告・連絡・相談をすること。 ・受験科目に政治・経済がある人（大学、短大、公務員、就職試験）は教科担任に相談すること。					

目次に戻る

学年・コース		教科		科目		単位数		担当者	
3学年		数学		実用数学		2		菊池 章仁・堀崎 裕史	
使用教科書				使用副教材					
科目の目標		基礎・基本的な知識及び技能の習熟を図り、社会に出たときに必要な力を身につけます。また、実生活の中で活用、実践できるよう事象を数学的に処理する能力を伸ばします。内容は主に中学校～高校2年の復習とし、就職試験（SPI）などに対応できるよう学んでいきます。							
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		◎				○		○	
育成のための 具体的方策		【基礎学力】 ワークシートを使用した授業。確認プリントと単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認する。 【情報活用能力】 Studyaid D.Bやロイロノートなどアプリケーションソフトを利用して学習に取り組む。 【協働力・課題解決力】 グループワークなどを通して、課題を発見し、さまざまな考え方を受け入れながら、自分の考えを表現し、解決策を見いだす。							
評価規準 (到達目標)		観点							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		● 数学の基本的な概念、公式、計算方法を理解しているか。 ● 学んだことを正しく活用し、計算や記述ができるか。		● 様々な角度から物事をとらえ、考えを深めることができるか。			● 授業に積極的に取り組んでいるか。授業マナーを守っているか。数学に関心を持ち、進んで学ぼうとしているか。		
評価の方法		授業課題・単元テスト		授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表			授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準									
単元名		SPI①（判断推理）							
単元の目標		対応関係、暗号、順序関係、最短経路等、事象を的確に捉え論理的に解答を導くことができる。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・対応関係や順序関係などさまざまな事象を的確に捉え、正しく計算することができる。		・対応関係や順序関係などさまざまな事象を的確に捉えることができる。			・対応関係や順序関係などさまざまな事象に関心を持ち、正しい解答を導こうとする。		
単元名		SPI②（数的推理）							
単元の目標		速さや濃度などの割合を正しく理解し、きちんと立式をすることで求めたい値を正しく求めることができる。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・グラフと解の関係を理解する。 ・割合の意味を理解する。 ・割合の意味を正しく理解し、計算することができる。		・割合の意味を正しく理解し、その性質を数の大小関係として捉えることができる。			・対応関係や順序関係などさまざまな事象を的確に捉えることができる。		
単元名		SPI③（判断・数的）							
単元の目標		与えられた資料から1つでも多くのことを読み取ることができる。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・与えられた資料から1つでも多くのことを読み取り、その本質を見極める。		・与えられた資料から1つでも多くのことを読み取り、その本質を見極める。			・与えられた資料から1つでも多くのことを読み取り、自らの解法を調べようとする。		
授業計画									
学期 月	学習項目			学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	・対応関係		・対応関係			15		◇小テスト ◇課題等の提出物 ◇単元別試験 ◇実験レポート ◇グループ活動での 取り組み状況
	5	・暗号		・暗号					
	6	・順序関係		・順序関係			15		
	7	・最短経路		・最短経路					
後期	9	・速さや濃度などの割合の計算		・速さや濃度などの割合の計算			15		
	10								
	11								
	12	・資料解釈等		・資料解釈等			15		
	1	・総復習					4		
				合 計			64		
学習サポート		OTTの授業を展開することで個々の学力に合わせたサポートを行う。 ○必要最低限のノートとメモで済むような授業プリントの工夫。 ○ICT機器を利用した見やすく、理解しやすい授業内容。 ○自主学習に役立つ「Studyaid Viewer」や「スタディサプリ」の日常的な活用。							

[目次に戻る](#)

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
3学年	理科		化学基礎		2	早乙女 宙士		
使用教科書	711化学基礎（第一学習社）			使用副教材	新課程版 プログレス化学基礎			
科目の目標	・物質とその変化について観察、実験を通して自然に対する関心を高め、探究能力を育てる。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するための基本技能を身につけ、主体的に関わることでその態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用能力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	○			○		◎	
育成のための 具体的方策	・授業に毎回出席し、話を聞き、書くこと、が必要。（基礎知識の習得） ・図表やグラフを多く扱うので、単なる単語の暗記ではなく“しくみやつながり”を意識して意味を理解すること。（知識の活用、科学的な見方考え方を重視します） ・実験や観察には危険も伴うので、授業中の指示には必ず従うこと。（決まりを守る）							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているとともに、化学的現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得する。さらに、身につけた知識を活用して問題を考えることができる。			物質とその変化のしくみに問題や疑問を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		日常生活や社会との関連を計りながら、物質とその変化のしくみに関心を持ち、主体的、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている		
評価の方法	定期考査、単元テスト、実験・観察			定期考査、単元テスト、発表		授業・実験・グループワークへの取り組み姿勢		
単元の目標・評価規準								
単元名	1章、物質の構成 1節、物質の成分と構成元素							
単元の目標	・物質が小さな基本構成粒子を成分として出来ていることを理解する。 ・物質の三態を学び、成分を確認する方法を習得する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	混合物と純物質、単体と化合物について正しく理解している。 熱運動と物質の三態、状態変化を正しく理解している。 成分分離に必要な実験器具を正確に扱うことができる			物質の構成成分の違いについて、正確に説明できる。 物質の成分を取り出すための適切な方法を思考できる。 日常生活のどのような場面で活用されているのかを表現できる。		授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 実験の内容を正確に理解し、積極的に器具の使用方法を習得しようとしている。		
単元名	1章、物質の構成 2節、原子の構造と元素の周期表							
単元の目標	・原子の構造を理解し、電子配置が判る。 ・電子配置と元素の周期表の関連性について理解する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	原子の構造を正しく理解し、質量数・原子番号と元素の種類を正しくいえる。 ・イオンの概念を理解し、イオン式が正しく書ける			・イオンの概念を理解し、電子配置との関連性を説明できる。 ・周期表と元素の性質について、原子の性質から正しく分類し、説明できる。		授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 実験の内容を正確に理解し、積極的に器具の使用方法を習得しようとしている。		
単元名	1章、物質の構成 3節、物質と化学結合							
単元の目標	・化学結合を理解し、その結合を表す化学式が書ける。 ・各化学結合の性質を理解し、その利用場面が判る。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	イオン結合と共有結合、金属結合の特徴の違いを正しく把握し、化学式が正確に書ける。			身近な製品と利用方法などを思考しながら、特徴を考えることができる。		授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 実験の内容を正確に理解し、積極的に器具の使用方法を習得しようとしている。		

単元名	2章、物質の変化 1節、物質量と化学反応式		
単元の目標	- 原子量・分子量と式量が判る。 - 質量パーセント濃度とモル濃度を理解する。 - 化学反応式について理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	原子量・分子量、式量を定義に則り正確に求められる。 質量パーセント濃度とモル濃度を定義に則り正確に求められる。 化学反応式を正しく記述できる。	実験に必要な薬品の分量を、式を用いて正確に求め、利用できる。	授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 実験の内容を正確に理解し、積極的に器具の使用方法を習得しようとしている。

単元名	2章、物質の変化 2節、酸と塩基の反応		
単元の目標	- 酸と塩基について定義に基づき理解する。 - 水素イオン濃度について理解する。 - 中和反応について理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	酸と塩基の定義を理解し、その性質を正しく認識できる。 水素イオン濃度とpHの関係を正しく理解し、pHを求められる。 中和反応について理解し、滴定実験を正確に実施できる。	知識に基づいて、実際に使用する薬品の量を正確に求め、正しくしよることができる。	授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 実験の内容を正確に理解し、積極的に器具の使用方法を習得しようとしている。

授業計画						
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期 後期	4	物質の構成	・物質の基本構成粒子を理解し、その構造と性質を理解する。 ・分離・精製や溶液の調整実験などを通して実験器具の使い方を習得する。	20		・授業への主体的な取り組み ・グループワークへの取り組み ・定期考査 ・単元テスト ・実験への取り組み ・発表の内容を観点別に見て、総合的に判定します。
	5	物質の構成粒子				
	6	単元テスト				
	7	粒子の結合	・イオンと分子と金属について、その性質や特徴を理解し、イオン式・分子式が書ける。 ・これらの結合が生活のどのような場所にある、どう活用されているか理解する。 ・原子量・分子量・式量を理解し、求めることができる。 ・物質量を理解し、求めることができる。 ・化学反応式を立てることができる。 ・計算や反応式をもとに、予測を立てて実験する。 ・酸と塩基について理解し、生活での活用場面について把握する。 ・中和反応と中和滴定ができる。	17		
	8					
	9					
	10	物質量と化学反応式	19			
	11					
	12					
	1	酸と塩基の反応	8			
2						
3						
			合 計	64		

学習サポート	授業で使用するもの ・教科書・ノート・筆記用具（黒・赤・青＋α）←図をいっぱい書きます 注意点 ・幅広い分野の学習になります。復習の部分もあるので、基礎力を身につけましょう。
--------	--

目次に戻る

学年・コース		教科		科目		単位数	担当者		
3学年		保健体育		体育		2	矢野 晋太郎		
使用教科書				使用副教材					
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる科目である。							
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		◎	◎	○	○		◎		
育成のための 具体的方策		・計画に沿って授業を進め、授業の振り返りやポイントを明確にする。 ・グループワーク、ペアワークを用い、主体的・協働的な活動を取り入れる。 ・スキルテスト							
評価規準 (到達目標)		観点							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。			運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、主体的に学習に取り組もうとしている。		
評価の方法		・スキルテスト ・課題の取り組み状況		・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況			・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況		
単元の目標・評価規準									
単元名		体づくり運動							
単元の目標		体を動かす美しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じ運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		体の構造、運動の原則などを理解している		自己の課題に応じて適切な条件を設定している。			互いの体力の違いに配慮し、意欲的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		球技Ⅰ バレーボール							
単元の目標		自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を寄贈楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパス、アタックなどのボールコントロールを身に付け、ゲームを展開できるようにする。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な方法を理解している。 ・特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		陸上競技（短距離走、長距離走、投てき）							
単元の目標		記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わうとともに、技能を高め、より速く走れるようにする。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・陸上競技に関して学習した具体例について理解している。 ・記録の向上に向けた体力の高め方を理解することができる。		自己の課題に応じた運動の行い方を見つけることができる。			自分の記録を更新するため、主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		ダンス（リズムダンス、創作ダンス）							
単元の目標		積極的に取り組むとともに、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流によって仲間とのコミュニケーションをとる。また、分担した役割を果たし、互いの違いや良さを認めたりできるようにする。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・様々なダンスの特徴や表現の仕方の違いを理解することができる。 ・テーマに合った動きを選択し、ダンスを創作することができる。		・自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫することができる。 ・即興的な表現や個性をいかした表現を用いながら、ダンスを創作することができる。			・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。 ・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。		
単元名		球技Ⅱ ソフトボール							
単元の目標		状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって、攻防を展開することができるようにする。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・攻撃側と守備側に分かれ、攻防を競い合う特性や技能を高める方法を理解している ・状況に応じたバット操作やボール操作、守備をすることができる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		球技Ⅲ バスケットボール							

単元の目標		自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を寄贈楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作を身に付け、チームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。				
観点		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 (A評価のレベル)		・攻防の中でシュートを楽しむ特性や、技能を高める方法を理解している。 ・特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。	技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。		互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。	
単元名		球技Ⅳ バドミントン				
単元の目標		自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク・サービスなどの安定したシャトル操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。				
観点		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 (A評価のレベル)		・ネット型種目の特性や個人やペアの技能を高める合理的な練習法を理解している ・各種フライトやサーブ技能、連携の仕方を身に付け、練習やゲームができる。	相手との攻防にあった作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を見つけることができる。		互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。	
単元名		体育理論				
単元の目標		運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むことができるようにする。				
観点		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 (A評価のレベル)		運動・スポーツが多様であることについて理解している	必要な情報を、比較したり分析して考えをまとめることができる。		主体的に学習に取り組もうとしている。	
授業計画						
学期 月	学習項目		学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	体づくり運動	集団行動、新体カテスト、体力を高めるための運動等 オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サービス等 短距離走・長距離走、投てき ヒップホップ、ロック、創作等 キャッチボール、バッティング、フィールディング、ゲーム等	3		授業観察 スキルテスト 課題の取り組み ワークシートの記載 内容
		球技Ⅰ バレーボール		7		
	5	陸上競技		7		
	6	ダンス		8		
後期	7	球技Ⅱ ソフトボール	ドリブル、パス、シュート、ゲーム等 各ストローク、ゲーム 体力を高めるための運動等 スポーツの歴史・特性など	7		
	8					
	9			8		
	1	球技Ⅲ バスケットボール		7		
	0	球技Ⅳ バドミントン		7		
	1	体づくり運動		4		
	1	体育理論		6		
	1					
	2					
	1					
	2					
	3					
			合 計	64		
学習サポート		・欠席、遅刻、忘れ物をしない。 ・積極的に参加し、運動に興味、関心をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・運動ができるかどうかだけではなく、総合的に判断し評価する。 ・授業は学校指定の体操着以外は認めない。（参加不可、見学扱い） ・見学であっても学校指定の体操着を着用すること。 ・見学の回数が3回ごとに補習を行う。 ・見学の回数が実時間数の20％を超えた場合は、履修の認定が難しくなる。 （怪我等で参加できない場合は除く） ・周囲と協力できない、指示に応じない場合は評価の大きな減点とする。 ・スキー授業の際は、ウェアと小物については各自で用意すること。 ・スキーセット（スキー、ブーツ、ストック）については、レンタル可能。				

目次に戻る

学年・コース	教科		科目		単位数	担当者		
3学年	保健体育		生涯スポーツ		2	矢野 晋太郎		
使用教科書				使用副教材				
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる科目である。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		◎	◎	○	○		◎	
育成のための 具体的方策	・計画に沿って授業を進め、授業の振り返りやポイントを明確にする。 ・グループワーク、ペアワークを用い、主体的・協働的な活動を取り入れる。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。			生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、主体的に学習に取り組もうとしている。		
評価の方法	・課題の取り組み状況			・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況		・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況		
単元の目標・評価規準								
単元名	ユニホック							
単元の目標	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。			仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。		様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	インディアカ							
単元の目標	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。			仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。		様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	モルック							
単元の目標	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。			仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。		様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	パークゴルフ							
単元の目標	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。			仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。		様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	アルティメット							
単元の目標	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。			仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。		様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	テニソン							

単元の目標		・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解する ・競技の楽しさや喜びを味わうことができる。							
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
評価規準 (A評価のレベル)		・技能の名称、上達方法、ルールなどを理解している。 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択できる。	仲間に対して技能を向上させるために適切な助言を与えることができる。また、レディネスに配慮し、計画立てて活動している。	様々なスポーツに主体的に取り組もうとしている。また、周囲と協力して取り組む中で自己の役割を果たし、主体的に学習に取り組もうとしている。					
授業計画									
学期 月	学習項目		学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法			
前期	4	ユニホック	・技能の名称、ルールの把握 ・技能、技術を高め、効果的な作戦や戦術を選択する。 ・健康・安全を確保して、主体的に学習に取り組む。	10		授業観察 課題の取り組み ワークシート 指導案の作成			
	5	インディアカ		9					
	6	モルック		9					
	7	パークゴルフ		12					
8									
9									
後期	1	アルティメット		10					
	0	テニボン		14					
	1								
	1								
	1								
	2								
	1								
	3								
				合 計			64		
学習サポート		・欠席、遅刻、忘れ物をしない。 ・積極的に参加し、運動に興味、関心をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・運動ができるかどうかだけではなく、総合的に判断し評価する。 ・授業は学校指定の体操着以外は認めない。（参加不可、見学扱い） ・見学であっても学校指定の体操着を着用すること。 ・見学の回数が3回ごとに補習を行う。 ・見学の回数が実時間数の20%を超えた場合は、履修の認定が難しくなる。 （怪我等で参加できない場合は除く） ・周囲と協力できない、指示に応じない場合は評価の大きな減点とする。 ・町民との交流授業があります。							

[目次に戻る](#)

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
3学年	芸術	音楽表現		2	永村 英美			
使用教科書	—			使用副教材	—			
科目の目標	音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。 （２）音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力，判断力，表現力等を育成する。 （３）音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用能力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○	◎	○				○	
育成のための具体的方策	育成のための具体的方策 ◎ペアやグループなどで協力して粘り強く試行錯誤し、演奏を完成させる。 ①様々な音楽の鑑賞を通して表現や価値観の多様性に触れ、自らの考えや意図を表現し評点するための土台を作る。 ②練習計画などをみずから立て、調整しながら練習を進める。							
評価規準（到達目標）	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	音楽表現をするために必要な知識・技能を身に付けている。		知識・技能を総合的に働かせ、意図をもって解釈し表現している。			演奏や音楽作品に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。		
評価の方法	主に実技試験で評価		主に取組内容で評価			主にワークシート、授業中の取り組みで評価		
単元の目標・評価規準								
題材名	器楽Ⅰ							
目標	選択した楽器などの音色や奏法の特徴を生かし演奏する。							
観点	知識・技能		知識・技能			知識・技能		
評価規準（A評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。			曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		
題材名	器楽Ⅱ							
目標	選択した楽器などの音色や奏法の特徴を生かし演奏する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準（A評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		旋律や和音の構成を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考、どのように音楽を表現するかについて意図をもっている。			それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。		
題材名	器楽Ⅲ							
目標	選択した楽器などの音色や奏法の特徴を生かし演奏する。							
観点	知識・技能		知識・技能			知識・技能		
評価規準（A評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。			曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		
題材名	アンサンブル							
目標	音色や奏法の特徴を生かし、曲想に合った音楽表現を工夫し、全体の響きを感じながら演奏することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準（A評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって演奏しようとしている。			それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。		
題材名	身体表現							
目標	響きやリズムを理解し、全体の響きを感じながらボディーパーカッションに親しむ。							

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって演奏しようとしている。	それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。

授業計画

学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	演奏会企画、音楽的知識、技能のおさらい	楽譜の読み方や基本的な演奏技術・知識を簡単な楽曲を通じて学習する。	3		◇観察法 ◇実技テスト
後期	器楽Ⅰ・アンサンブル	個に応じた楽曲を選択し、楽曲の基礎的な要素を理解それぞれの役割を理解し、計画的に練習を組み立てる。アンサンブルの良さにふれて音楽の多様性について理解を深める。	19		◇観察法 ◇実技テスト
	器楽Ⅱ・アンサンブル	楽曲の発展的な理解と演奏表現の工夫それぞれの役割を理解し、計画的に練習を組み立てる。アンサンブルの良さにふれて音楽の多様性について理解を深める。	20		◇観察法 ◇実技テスト
	セミファイナルコンサート		1		◇観察法
	器楽Ⅲ・アンサンブル	楽曲の発展的な理解と演奏表現の工夫それぞれの役割を理解し、計画的に練習を組み立てる。アンサンブルの良さにふれて音楽の多様性について理解を深める。	19		◇観察法 ◇実技テスト
	身体表現	グループを作って一人ひとりの役割を決め、リズムの特徴を生かしながら、全体の響きに気をつけてボディーパーカッション・アンサンブルを行う。	7		◇観察法 ◇実技テスト
	ファイナルコンサート		1		◇観察法
合 計			70		

学習上の注意点	授業マナーを大切にすること。守れない場合全ての観点の評価が大幅に下がります。セミファイナルコンサートは評価の要となる非常に大切な部分です。
学習サポート	授業内容に関する質問はいつでも受け付けます。都合が合わない場合、説明に時間がかかる内容も時間を作り対応しますので声をかけてください。ただし、普段の授業態度が良くない場合は対応しません。

[目次に戻る](#)

学年・コース	教 科		科 目	単位数	担当者			
3学年	外国語科		英語 コミュニケーションⅡ	3	高 橋 笑 子			
使用教科書	All Aboard!Ⅱ（後期）			使用副教材	オールアボードブリッジワーク ・ 夢をかなえる英単語0 夢をかなえるリスニング0 ・ 夢をかなえるリスニング1 Vision Quest New English Grammar 24			
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	◎			○		○	
育成のための具体的方策	基礎学力:教材等を用い、英語を活用した学習を行う。 コミュニケーション能力:グループワークを通じた活動や発表を行う。また、日々の授業において英語でのやりとりを行う。							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について聞く、読むなどしてその内容を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して伝え合う、発表する、書くなどの技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について必要な情報を聞き取り、話し手・書き手の意図や概要、要点を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して発表したり、書いたりして伝えている。			外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手・書き手・聞き手・読み手に配慮しながら、主体的、自立的に英語を活用しようとしている。		
評価の方法	ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS)		ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS) 発表、話し合い等の多様な活動			言語活動やパフォーマンステスト等への取組状況 配布プリント等をの学習への取組状況		
単元の目標・評価規準								
単元名	Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界							
単元の目標	○ヨーロッパの国々の祭りに登場するワイルドマンについてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ○身近な行事について、英語で紹介することができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	[知識] itを用いた文(It is … (for ―) to ～)(It is … that ～)の形・意味を理解している。また、ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について調べた事柄を理解している。 [技能] 単元で学習した文法の理解をもとに、ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。		ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。			ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。		
単元名	Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく							
単元の目標	○世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ○自分の好きな物語を英語で紹介することができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]間接疑問文の形・意味を理解している。また、ハチドリやハチドリを主人公にした物語について学んだり、好きな物語について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]間接疑問文の理解をもとに、ハチドリを主人公にした物語について学んだり、自分で調べた事柄を用いて、考えや理由などを話して伝え合う技能を身に付けている。		ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや理由などを話したり書いたりして伝え合っている。			ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや理由などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。		
単元名	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語							
単元の目標	○日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について知る。 ○日本の文化について、英語で説明することができる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	[知識] to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。また、歌舞伎と隈取について学んだり、日本の伝統文化について調べた事柄を整理・理解している。 [技能] to不定詞を含む表現の理解をもとに、歌舞伎と隈取について学んだり、日本の伝統文化について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。		歌舞伎と隈取について解説する歌舞伎教室の音声ガイドの文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。			歌舞伎と隈取について解説する歌舞伎教室の音声ガイドの文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。		
単元名	Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ							
単元の目標	○海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 ○地元で有名な場所やものについて、英語で説明することができる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]京野菜について学んだり、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を理解している。		伝統野菜に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、地元の有名な場所やものについて、相手の意見を知り、自分の考			伝統野菜に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、地元の有名な場所やものについて、相手の意見を知り、自分の考		

	[技能]動詞の目的語になるif節の理解をもとに、京野菜について学んだり、地元の有名な場所やものについて自分で調べた事柄を用いて、地元の有名な場所やものについて紹介するポスターを作成して、考えや情報などを話して伝え合う技能を身につけている。	知り、自分の考えをまとめるために、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。	えをまとめるために、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
単元名	Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ		
単元の目標	○世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ○世界の人々と交流する方法について、英語で述べることができる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]関係副詞where, whenを用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]関係副詞where, whenの理解をもとに、世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。	世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
単元名	Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ		
単元の目標	○生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ○自然界のデザインをヒントにした製品について、英語で発表できる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]知覚動詞の理解をもとに、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を用いて紹介記事を作成し、情報などを話して伝え合う技能を身につけている。	生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自然界のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。	生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自然界のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
単元名	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実		
単元の目標	○チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ○社会的な問題について、英語で意見を述べることができる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]使役動詞の理解をもとに、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。	チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
単元名	Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール		
単元の目標	○医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ○人を助ける職業について、英語で説明することができる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	[知識]ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]分詞構文の理解をもとに、ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。	医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。

授業計画					
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間
前期	4	Lesson2	分詞	10	定期考査 パフォーマンステスト 発表 話し合い活動 授業への取組状況 等
	5	Lesson3	比較表現、病気の表現(P)	15	
	6	Lesson4	間接疑問文	10	
	7	Lesson5	入国審査(P)	13	
	8	Lesson6	関係副詞	10	
後期	9	Lesson7	宿予約・チェックイン(P)	12	
	10	Lesson8	知覚・使役動詞	15	
	11	Lesson9	飲食店での表現(P)	10	
	12	Lesson10	仮定法	10	
合 計				105	

学習サポート	
--------	--

目次に戻る

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
3学年	商業	情報処理		2	本郷 雄一郎			
使用教科書	最新情報処理(実教出版)			使用副教材	全商情報処理検定模擬問題集2級(実教出版)			
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎				○		○	○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 情報活用力・協働力、課題解決力・社会形成力：ICTを活用し、社会のさまざまな課題を発見したり、情報の信憑性を見極めながら自分の考えを適切に表現する。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査・単元テスト 実技課題		定期考査・単元テスト 実技課題・発表			問題集・ワークシート グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	1章 ビジネス文書の作成							
単元の目標	分掌の表現、ビジネス文書の種類などビジネス文書の作成に関する知識、技術などを基盤として、ビジネス文書の作成に対する要求などに基づいた適切な情報の発信について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。 また、検定に向けた取り組みを通じ、実践力を養う。							
観点	知識・技能		知識・技能			知識・技能		
評価規準 (A評価のレベル)	ビジネス文書の作成について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネス文書の作成について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。			ビジネス文書の作成について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		
単元名	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク							
単元の目標	コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する知識、技術などを基盤として、情報技術の進歩、コンピュータシステムと情報通信ネットワークの活用に関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、適切な情報の収集と管理について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて実務での活用について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、情報を収集し管理する方策を考案して実施し、評価・改善している。			コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	3章 情報の集計と分析							
単元の目標	統計、表・グラフの作成など情報の集計と分析に関する知識、技術などを基盤として、ビジネスに関する情報の集計と分析に対する要求などに基づいた適切な情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。 また、検定に向けた取り組みを通じ、実践力を養う。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。			ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	4章 プレゼンテーション							
単元の目標	プレゼンテーションの技法などプレゼンテーションに関する知識、技術などを基盤として、プレゼンテーションに対する要求などに基づいた適切な情報の伝達について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技能		知識・技能			知識・技能		
評価規準 (A評価のレベル)	プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。			プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		
単元名	5章 課題研究（資格取得）							
単元の目標	自らの進路実現に必要なスキルを更に深化、省察しながら目標を設定し、資格取得に取り組んでいる。 また全商情報処理検定やビジネス文書検定の受験を通して、自らの取り組みを振り返るなどPDCAサイクルで自らの目標、課題解決に取り組み、実践力を高める。身に付けたスキルをもとに地域への貢献活動ができる							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	自らのキャリア形成に必要な資格やスキルについて理解し、目標設定ができ、目標を達成するための方法を理解している。		自らのキャリア形成に必要な資格やスキルについて理解し、目標設定ができ、目標を達成するための方法を理解している。また身に付けたスキルをもとに外部への貢献活動ができる。			自らのキャリア形成に必要な資格やスキルについて理解し、目標設定ができ、目標を達成するための方法を理解し、実践している。		

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性	身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実例を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。	2		定期考査 単元テスト 問題集
	2節 情報モラルと法規	身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。	2		
	3節 コミュニケーションと情報デザイン	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	3		
	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク				
	1節 コンピュータシステムの概要	コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを使用する基本的な技術を身に付ける。	3		定期考査 単元テスト 問題集
	2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法、情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	1		
	3節 インターネットの活用		2		
	4節 情報セキュリティの確保		1		
	3章 情報の集計と分析				
	1節 ビジネスと統計	情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付けると同時に、基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。	3		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 関数を利用した表の作成	グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。	16		
	3節 グラフの作成	大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。	7		
	4節 情報の整列・検索・抽出		5		
	5節 問題の発見と解決の方法		3		
	4章 ビジネス文書の作成				
	1節 ビジネス文書と表現	事文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。	1		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 基本文書の作成	ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。	6		
	1. ワープロの操作と入力方法	基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。			
	2. ワープロを利用した文書の作成	ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。	6		
	3. 社外文書				
	4. 社内文書				
	3節 応用文書の作成				
	5章 プレゼンテーション				
	1節 プレゼンテーションの技法	ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。	1		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。	6		
	総合演習	各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。	2		
		合 計	70		
学習サポート		7月、11月には、全商ビジネス文書実務検定、9月、1月には情報処理検定の受検が必須です。単元によって学習の仕方が変わりますが、実社会で活きるPC技能の習得に向けた実技演習が中心となります。積極的に参加をしてください。			

目次に戻る

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
3学年・選択	商業		マーケティング		2	本郷 雄一郎		
使用教科書	マーケティング（実教出版）			使用副教材		マーケティング 準拠問題集（実教出版）		
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、現代市場の特徴やメカニズム、マーケティングを総合的に理解し、ソーシャルマーケティングの実践に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎				○		◎	○
育成のための具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 課題解決能力：社会課題を、マーケティングによって解決するという思考をグループワーク等で養う。 社会形成力・情報活用能力：情報を活用し社会課題の解決や産業の成長に寄与する思考を様々な例を用いて提示し、個々の力を高める。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。		唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。			ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査・単元テスト			定期考査・単元テスト		問題集・ワークシート		
単元の目標・評価規準								
単元名		マーケティングの概要						
単元の目標		マーケティングを学ぶ意義を理解する						
観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		・売れる仕組みの構築とは、どのようなものであるかを理解している。		・売れる仕組みの構築とは、どのようなものであるかを考察し、表現する力を身に付けている。			・売れる仕組みの構築とは、どのようなものであるかを理解し、自分の意見を調整することができる。また、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。	
単元名		消費者行動の理解						
単元の目標		マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ。						
観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		・消費者の視点による消費者行動や問題解決の手段としての購買について理解している。		・消費者の視点による消費者行動や問題解決の手段としての購買について考察し、表現することができる。			・消費者の視点による消費者行動や問題解決の手段としての購買について考察し、自分の意見を調整することができる。また、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。	
単元名		市場調査						
単元の目標		市場調査について理解し、関連する技術を学ぶ。						
観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		・市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		・市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析することができる。			・市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
単元名		STP						
単元の目標		STP分析を理解し、関連する技術を学ぶ。						
観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		・STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		・STP分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。			・STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
単元名		製品政策						
単元の目標		製品政策について企業における事例と関連付けて理解する。						
観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		・製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。		・製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。			・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	

単元名		価格政策					
単元の目標		価格政策について企業における事例と関連付けて理解する。					
観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)		・価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。	・価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。	・価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
単元名		チャネル政策					
単元の目標		チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解する。					
観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)		・チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。	・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。	・チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
単元名		プロモーション政策					
単元の目標		プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。					
観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)		・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。	・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。	・プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
単元名		マーケティングのひろがり					
単元の目標		マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解する。					
観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)		・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。	・マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。	・マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
授業計画							
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
前期	4	第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング	・現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ。 ・現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深める。 マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。	5	10	単元テスト ワークシート 問題集	
	5	3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント					
	6	第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因	・マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ。 ・消費者の心理や購買意思決定までの過程、消費者行動に影響を与える要因について理解する。 ・消費者行動について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			単元テスト ワークシート 問題集	
	7	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法	・市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づく調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。 ・市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に積極的に取り組む。	10			
	8						
	9	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	・STP分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 ・STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	2		定期考査 ワークシート 問題集	
	後期		第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	・製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善する。 ・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組む。	3	10	単元テスト ワークシート 問題集
		10					
			第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	・価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善する。 ・価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組む。		12	
		11					
		12	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善する。 ・チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組む。	10	定期考査 問題集	
		1	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。			

	3. プロモーション政策の動向 第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	・プロモーション政策について自ら学び，経済や消費者の動向などを踏まえ，プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。 ・マーケティングの広がりに関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 ・マーケティングの広がりについて自ら学び，主体的かつ協働的に取り組む。	2		
		合 計	64		
学習サポート	・2月には全国商業高等学校協会主催の商業経済検定2級（マーケティング）を全員で受験します。				

[目次に戻る](#)

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
3学年・選択	商業		簿記探求		2	安井 宏樹		
使用教科書	新簿記（実教出版）			使用副教材	最新式簿記検定問題集 全商2級（実教出版）			
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎							○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 社会形成力：企業経営の仕組みを会計分野の側面から理解し、実務を身につけることで実社会との関係性を見いだす。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	日々の企業取引を正確に記録し、企業会計の基となる損益計算書・貸借対照表を作成するために必要な技術を身に付けている。		実社会における企業活動を把握・理解するとともに、企業の課題を見いだし解決するための基本的な方策を考え表現することができる。			自ら簿記について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、日々の取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む。		
評価の方法	定期考査・単元テスト		定期考査・単元テスト			問題集・ワークシート		
単元の目標・評価規準								
単元名	取引の記帳							
単元の目標	企業において発生する様々な取引を理解し、記帳することができる。経営活動を広げるため各地に支店を設けることに伴い発生する本支店会計について理解する。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	手形取引や譲渡・不渡り、有価証券の取引、本支店間の取引について理解し、記録、記帳することができる。		手形取引や譲渡・不渡り、有価証券の取引、本支店間の取引の概要を説明することができる。			適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的に取り組もうとしている。		
単元名	決算②							
単元の目標	収益、費用の見越し・繰り延べなど、会計期間をまたぐ記帳について、理解する。さらに様々な減価償却の方法や未使用分の処理についても理解する。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	収益、費用の見越し・繰り延べの決算整理仕訳及び再振替仕訳をすることができる。減価償却費を定率法で算出する。		企業会計原則に基づいた思考を理解、表現することができる。			適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的に取り組もうとしている。		
単元名	株式会社の取引							
単元の目標	進んだ学習として、株式会社の取引や記帳について学ぶ。個人商店と株式会社の仕組みの違いや資本についての考え方にも触れる。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	株式会社の設立、株式の発行、剰余金、配当について理解している。		取引を通じて、個人商店と株式会社の相違点を理解し説明することができる。			適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的に取り組もうとしている。		
授業計画								
学期 月	学習項目		学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	第24章 特殊な手形の取引	○手形の裏書譲渡、割引、書き換え、不渡りについて理解する。 ○営業外受取手形・営業外支払手形について理解する。			5		単元テスト ワークシート 問題集
	5	第25章 有価証券の取引	○有価証券には何があるかを理解したうえで、取得と売却の方法及び記帳の仕方を理解する。			10		
	6	第26章 本支店会計	○支店会計の独立、本支店間の取引を理解する。					
	7		○本支店の財務諸表の合併について理解する。			10	単元テスト ワークシート 問題集	
	8							
	9	○前期期末考査	○支店相互間の取引の記帳について理解する。			5		定期考査 ワークシート 問題集
	第27章 最近の実務に広がる取引	○クレジット売掛金・電子記録債権・債務の概要を理解する。						

後期	10	第28章 決算整理	○クレジット売掛金、電子記録債権・債務の発生、消滅、譲渡の仕組みを理解し、記帳することができる。	10	単元テスト ワークシート 問題集 定期考査 問題集
	11		○費用・収益の見越し、繰り延べに関する決算整理仕訳を理解する。	12	
	12		○期間をまたいだ処理、再振替仕訳を正しく理解する。	10	
	12	第29章 株式会社の取引と財務諸表	○有価証券の評価、減価償却費の計上（定率法）、費用の未使用分を理解する。	2	
	1 2	○学年末考査	○発展した学習として株式会社の設立、株式の発行、剰余金の配当と処分について触れておく。		
			合 計	64	
学習サポート		・授業では教科書、問題集、ファイル、電卓、赤ボールペン、定規を使用します。 ・1月には全国商業高等学校協会主催の簿記検定2級を全員で受験します。また進度によっては全経検定及び日商検定にも挑戦します。			

目次に戻る

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
3学年	家庭科	生活と福祉		2	石野 彩花			
使用教科書	生活と福祉（実教出版）			使用副教材				
科目の目標	高齢者の介護と福祉に関する知識と技術を習得し、高齢者の自己決定に基づく自立生活支援と福祉の充実について思考を深め、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援を担う資質・能力を身に付ける							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	○					○	○
育成のための 具体的方策	・ワークシートの活用と、テストの実施による基礎学力の確認 ・実習、グループワーク、課題制作の実施							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	高齢者の健康と生活、介護などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている		高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている			家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている		
評価の方法	テスト・実習		ワークシート・テスト・課題			ワークシート・テスト・課題		
単元の目標・評価規準								
単元名	健康と生活							
単元の目標	健康の概念とライフステージごとの健康管理について、高齢期に至るまでの生活における健康問題と家庭での健康管理の必要性を理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	健康の概念とライフステージごとの健康管理について理解している		ライフステージごとの健康問題を踏まえ、生活習慣病の予防など高齢期に至るまでの課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している			健康と生活について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる		
単元名	高齢者の特徴と自立支援							
単元の目標	加齢に伴う心身の変化と、高齢者介護の基本として、自立生活支援の考え方を理解し、高齢者の自立生活支援と介護について考察できるようにする							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	加齢に伴う心身の変化を踏まえ、高齢者の自己決定に基づく自立生活について理解している		高齢者が地域において自立生活を送るための課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している			高齢者の自立生活支援と介護について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる		
単元名	高齢者支援の法律と制度							
単元の目標	社会福祉の必要性や、高齢化の進行に伴って整備された法規と制度の目的と概要、変遷について理解し、高齢者の健康や生活を地域で支えるための保健・医療・福祉サービスについて理解できるようにするとともに、日本の高齢化の特徴と人口減少社会について考察できるようにする							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	高齢者福祉の法規と制度の概要について理解している		日本の高齢化の特徴と人口減少社会の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している			高齢者福祉の制度とサービスについて自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる		
単元名	介護・看護の実習							
単元の目標	介護・看護の基礎的な技術を習得するとともに、レクリエーションに対する関心を高め、高齢者の自立生活を支えるための実践的な態度を育てる							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	介護・看護や生活支援に関する基本的な技術を身に付けている		生活支援サービスと介護・看護の実習に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する			生活支援と介護・看護の実習について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる		

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	健康と生活	○健康と健康管理について理解する。 ○ライフステージごとの課題を考える。	5 8		テスト 提出物
4	・健康の概念				
5	・ライフステージと健康管理				
6	少子高齢化の現状と高齢者の特徴	○少子高齢化や高齢者の特徴について理解する。 ○身に付けた知識から、高齢者の生活の課題を見だし、 解決策について考える。	8		テスト 提出物
7	・少子高齢化の特徴				
8	・高齢者の心身の特徴				
9	・高齢者の病気				
10	・高齢者の疾患と特徴				
11	・高齢者の生活の課題				
12	高齢者支援の法律と制度	○様々な制度に関する知識を身に付ける。 ○制度の活用方法を考える。 ○現在の高齢者支援について調べ、まとめる。	5 4 7		テスト 提出物
1	・社会保障・社会福祉制度のしくみ				
2	・介護保険制度のしくみ				
3	・さまざまな高齢者支援				
4	介護・看護実習	○介護・看護の意義について理解する。 ○基本的な介護・看護実習に関する知識を身に付け、実習 にて実施し、技術を身に付ける。 ○生活支援やレクリエーションの意義について理解する ○レクリエーションを企画し、実施する。	8 8 8 3		テスト 実習 提出物
5	・体位変換				
6	・移動の介助				
7	・食事の介助				
8	・その他の介助				
9	・家庭看護の意義				
10	・生活支援の考え方				
11	・レクリエーション				
合 計			64		
学習サポート		・教科書、配布プリント、ファイルを毎回使用します。 ・個人の課題や、グループでの活動、実習等も実施します。欠席時数に注意し、積極的に参加しましょう。			

[目次に戻る](#)

学年・コース	教科		科目		単位数	担当者		
3学年	家庭科		フードデザイン		2	石野 彩花		
使用教科書	フードデザイン（実教出版）			使用副教材				
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて実験・実習を通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人としての必要な資質・能力を身に付ける。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎			○			○	
育成のための 具体的方策	・ワークシートによる学習と、実習による技能定着 ・実習、グループワーク、課題作成の実施							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		食生活現状に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する能力を身に付けている。			食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査・単元テスト 実技課題		定期考査・単元テスト グループワーク・発表 ワークシート			ワークシート グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	第1章 食生活と健康							
単元の目標	食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全及び環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状について把握し、課題意識をもつことができるようにする							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全及び環境との関わりなどについて理解している		健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて考察することができる			健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる		
単元名	第2章 栄養素のはたらきと食事計画							
単元の目標	栄養についての知識を身に付け、ライフステージごとの食事計画や献立作成をすることができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	栄養素に関する知識を身に付け、食事計画を立てることができる		食事計画における課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について工夫し考察することができる			栄養素と食事計画について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる		
単元名	第3章 食品の特徴・表示・安全							
単元の目標	食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化などについて理解し、食品の性質と目的に応じた加工・貯蔵の方法を、食品の安全性や食品産業の取組などの点から、目的に応じて適切に選択することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	食品の特徴・表示・安全に関する知識を身に付けている		食品の特徴・表示・安全に関する課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について工夫し考察することができる			食品の特徴・表示・安全について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる		
単元名	第4章 調理の基本							
単元の目標	調理操作が料理のでき上がりに大きく影響することを理解し、適切な調理操作ができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	調理に関する知識・技術を身に付けている		調理における課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について工夫し考察することができる			調理について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる		
単元名	第5章 料理様式とテーブルコーディネート							
単元の目標	日本料理、西洋料理及び中国料理についての特徴や献立構成を理解し、食卓構成や食卓作法、応に伴うマナーなど料理に応じた適切な選択ができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	各料理様式やテーブルコーディネートに関する知識・技能を身に付けている		料理様式とテーブルコーディネートにおける課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について工夫し考察することができる			料理様式とテーブルコーディネートについて自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる		
単元名	第6章 フードデザイン実習							
単元の目標	食事のテーマに応じた献立作成、食材の選択と調理、テーブルコーディネートと各料理のサービスの方法について、一連の実習を通して実践できるようにする							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	食事のテーマに応じた献立作成、食材の選択と調理、テーブルコーディネートと各料理のサービスの方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。		食事計画についての課題を発見し、その解決に向けて考察し、表現することができる。			フードデザイン実習について自ら学び食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組むことができる。		

単元名	第7章 食育		
単元の目標	食育基本法及び食育推進基本計画の趣旨を十分に理解し、これまでの学習を生かして、家庭や地域における食育を推進する活動を行う		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	食育を推進することの重要性を理解し、家庭や学校及び地域で食育推進活動を推進するための関連する技術を身に付ける	家庭や学校及び地域における食育の推進について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる	食育と食育推進活動について自ら学び、家庭や社会の人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動などを通して食育の推進に主体的かつ協働的に取り組むことができる

授業計画						
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
前期	4 第1章 食生活と健康 1 食事の意義と役割 2 食をとりまく環境	○食事の意義と役割を理解する。 ○食をとりまく環境を理解し、身の回りの課題について考える。	2		ワークシート テスト・考査	
	5 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1 栄養素のはたらき 2 ライフステージと栄養 3 食事摂取基準と食事計画	○栄養素のはたらきについて理解する。 ○ライフステージごとの栄養について理解し、食事摂取基準をもとに食事計画を立てる。	10		テスト・考査 ワークシート	
	第4章 調理の基本 1 調理とおいしさ 2 調理操作 3 調理操作	○調理とおいしさについて理解する。 ○調理操作とその目的について理解する。	3		テスト・考査 ワークシート	
	6 第6章 フードデザイン実習 1 料理様式と献立 2 テーブルコーディネート	○食品の特徴、性質について理解し、食品に合った調理をする。 ○食品の衛生と安全に留意した調理をする。 ○食品の選択方法を理解する。	46		テスト・考査 提出課題 ワークシート 実習	
	7 第3章 食品の特徴・表示・安全	○各料理様式について理解し、調理し、テーブルコーディネートを行う。 ○食事計画に基づいた調理をする。				
	8 1 食品の特徴と性質					
	9 2 食品の生産と流通					
	10 3 食品の選択と表示					
	11 4 食品の衛生と安全					
	12 第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1 料理様式と献立 2 テーブルコーディネート					
	1 第7章 食育	○食育の意義について理解し、推進の方策や課題について考える。	3		テスト・考査 提出課題 ワークシート 実習	
	2 1 食育の意義と課題 2 食育推進活動					
合 計			64			
学習サポート		・調理実習は2時間連続で行うことが多いので、欠席には注意してください。 ・実習後の課題までしっかりと取り組んでください。 ・実習費を集めます。（1人3500円前後を予定）				

目次に戻る

学年・コース		教 科	科 目		単位数	担当者				
3学年		総合的な探究の時間			1	高橋 笑子				
使用教科書		—		使用副教材	—					
科目の目標		探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。								
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働能力 課題解決力	社会形成力	
			○		○	◎	○	◎	○	
育成のための 具体的方策		「情報活用力」調べ学習・見学を通して、白糠町の現状と問題の把握をする。 「協働能力・課題解決力」授業を通して学んだことを解決するための方策を、自分事として捉え、他者と協力しながら答えを導き出す。								
評価規準 (到達目標)		観 点								
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		ワークシート等の取組および提出状況、発表の内容等		ワークシート等の取組および提出状況、発表の内容等		授業の取組および提出状況、発表の内容等				
評価の方法		提出物、発表および観察		提出物、発表および観察		提出物、発表および観察				
単元の目標・評価規準										
単元名		マーケティングの基礎								
単元の目標		○マーケティングの基礎を学ぶ								
観 点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
評価規準 (A評価のレベル)		探究の過程において、必要になる知識や考え方を身に付け、プランの企画・発表へつながる取組を深めている。		探究の過程において、企画・発表に必要な知識や考え方を身に付けている。		探究の過程において、企画・発表に必要な知識や考え方を身に付けようとしている。				
単元名		ビジネス・コンペティションに向けた企画・発表								
単元の目標		○NoMaps釧路根室2024への出展を目指す ○ビジネスによる地域活性化 ○問題解決のためのモデル作成と実施								
観 点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
評価規準 (A評価のレベル)		探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。		実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。		探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。				
授業計画										
学期 月		学習項目	学習内容				予定 時間	実施 時間	評価方法	
前 前 前 後	4 5 7 11	オリエンテーション マーケティングの基礎 ビジネス・コンペティション	「知る・探る・究める」の「究める」とは ビジネスプランの作成方法の学習（自己表現、情報発信） ビジネス・コンペティション発表に向けた中間発表 ビジネスによる地域活性化・課題解決のためのモデル作成と実施 既存産業の利用、新規ビジネスの起業				2 2 7 20		レポート・作品・ 取組・発表	
							合 計	32		
学習サポート										

[目次に戻る](#)

